

高齢者交通安全指導員養成講座を終えて

平成22年度からクレフィール湖東の交通安全研修所で実施している「高齢者交通安全指導員養成講座」を、今年も5月と6月の2回開催しました。5月29日は20名、6月26日は18名、合計38名が参加され、熱心に受講して下さいました。

今回の研修中の目的

1 基本に戻る 2 限界を知る 3 安全意識の向上と変革



単純反応ゲーム

一つの指示で動作に移す時の反応。すぐに反応でき、間違いが少ないです。



複雑反応ゲーム

ジャンケンをして勝ったら相手の手をたたく。負けたらガードする。二つの指示に対して反応することで動作が遅れたり、間違いが増えます。

ハンドルで事故を回避するのではなく、何かあったらブレーキ！を心がけることで単純反応により事故を回避することができることを実感するゲームでした。

基本走行(運転姿勢の重要性)

1人ずつジグザグに設定したコースを走行した後、正しい運転姿勢について話を聞きました。シートの角度やハンドル・アクセルまでの長さに気をつけて正しい姿勢で座ることにより、スピードやカーブへの対応、ブレーキを踏むタイミング等、安全な走行につながることを教えていただき、運転免許取得時の「基本に戻る」ことの大事さを再認識しました。そして、学んだことを生かして再度コースを走行し、違いを実感しました。



車の限界を知る。自分の限界を知るために、ジグザグ走行や、スピードを出して確実に止まるなどの体験を行いました。

一回目は意識せずに運転し、二回目は正しい姿勢について話を聞いた後、運転されました。体のブレが全く違い、腰にも負担が少ないそうです。



シートベルトの必要性

時速5~10kmで急ブレーキをかけたときの衝撃を体験していただき、シートベルトの必要性を確認しました。後部座席に人を乗せるときにもシートベルトを着用することを呼びかけていくことが大事です。自分の命を守るためにもシートベルトは必ずつけましょう。



視界特性と死角



大型トラックの運転席から
見えていない部分が大変多い
ことを知りました。

前だけを見ていると斜め
後ろが見えていません。必
ず目視をしながら運転する
必要があります。



実際に乗用車と大型トラックの運転席に座り、見えないところはどこかを確認しました。歩行者や自転車に乗っているときには、「運転者に気づいてもらっていないことがある」ということを考える必要があります。人の目の弱点についても考えることが大切です。

コース内実場面走行体験

[サンキュー事故][右直
事故][出会い頭事故][自転
車の特性]の場面が設定さ
れたコースを1人ずつ走行
しました。危険予知を行う
ことが大事です。



参加者の感想～

- 普段考えていて分かっていたことでも今回全て体験研修をして下さり改めて危険予知、安全運転の重要性を再認識させて頂きました。
- 自分の運転に不安を感じました。うっかりしている部分があるのだと思います。これから先の運転でここで習ったことをしっかりと身に付けたいと思います。ここに来られてよかったです。
- 車の運転姿勢の重要性や交差点で留意すべき事項（歩行者、自転車、バイクへの注意など）また、視界や死角の事など自分で再確認するなど大変有意義な研修でありました。今後の交通安全指導に役立てたいと思います。

今回の講座を受けていただいた皆さんには、学んだことを生かして、地域や職場等で、高齢者を対象とした交通安全実地体験教育のサポートをしていただくことになっています。また、秋には情報交換会を開催し、実践交流の場を持つ予定です。（5年間での受講者は、200名を超えました。